

ケアポート板橋 特養4階

症例概要 特養ご利用者 70代 男性 要介護4

2021年 アルツハイマー型認知症、多発性骨髄腫疑い

R4.5月 ご入居。向精神薬を複数含む、ポリファーマシーの状態。歩行のふらつきや日中傾眠強く、昼夜逆転及び活気経過。医療を中心とした内服調整及び他職種連携にて、職業とされていた「画家」としての生きがいや、充実した時間を取り戻し、自分らしく生活することができるようになった事例。

内 容

入居前は一軒家に一人暮らし。インテリアパースの画家を生業とし、出版される程の腕前を持たれておりました。外部サービスを利用しながら何とか自宅での生活を継続しておりましたが、出先で動けなくなることもあり、急遽SS利用。その後特養へ入居となります。

杖歩行ですが、低血圧により非常にふらつきが強く、現場・医師・看護との検討にて利尿剤を一旦中止。時折発語が出てくる様になります。ただ日中は傾眠が強く、臥床時間も長くなり、昼夜逆転の生活となってしまっておりました。入居半月後には、強い背部痛・腰痛の訴えがあり、水分量も低下。排便のコントロールにも影響がでます。

現場においては、日々の記録をできるだけ小まめに入力するようにし、看護や栄養課へ状態を伝えるようにしました。現場の情報を基に、向精神薬の調整をDr交え検討を繰り返しますが、傾眠の状況は変わらず、薬の吐き出しや食事も未摂取となることが増えてきました。歩行も安定せずやむを得ず車いす対応となります。

このままではADL及びIADLは低下の一途を辿る為、精神薬を中止。その後少しずつですが活気が出て8月上旬からは絵をじっくり描いたり、穏やかな表情で声掛けに対しても笑顔でたくさんのお話をしてくださるようになりました。

コロナ禍でご家族と面会ができず、IPADで息子様とお孫様とリモートにて面会の機会を作り、「家にいた頃は絵を描くこともしなかったけど、表情がすごく穏やかで笑顔多くなりました。こんなに絵も書くようになるとは思わなかったです。すごく嬉しいし、ありがとうございます」と大変喜ばれておりました。また規則正しい生活を送れる様になり、日中の傾眠は殆どなくなり、杖での歩行もOT協力により安定するようになりました。プランターのお花に水をあげたり、外をじっと眺めたりしながらご自分で描いた昔の絵を職員

に見せて下さったりしています。

11月には新たに発足したキャラバンメイト委員会のTシャツデザインを依頼。委員会メンバーとしてTシャツをお渡しすると「これいいねえー」と大変喜ばれ、近隣中学校での文化祭にも作品を出展。2階の会場でしたが、階段をスムーズに上がることができております。

様々な職種間で状態を伝え、どんな小さなことでも気付き、他職種と連携して諦めずに進めていけたことで、利用者さんの尊厳を取り戻すことができました。今は杖歩行もしっかりとでき、食事も毎食全量。とても穏やかな表情となり、身体の痛みなども聞かれなくなりました。